

歴史まち歩き

12 大鳥居のまち 中村

コース(地下鉄中村公園駅▶地下鉄中村公園駅)

天下人・秀吉と、 築城の名手・清正が生まれた地

秀吉は尾張・中村に農民の子として生まれ、武士や貴族にほとんどつながりを持たず、生まれ持つ愛嬌や人情味で人の心を掴み、みるみるうちに天下を取ったと言われています。秀吉の出自については謎も多いけれど、尾張中村で「日吉丸」という名で少年時代をすごしました。若き秀吉と清正に想いを寄せ、ゆかりの場所をめぐってみましょう。

① 大鳥居

参道には大正10年(1921年)、中村区が名古屋市に編入されたのを記念して計画され、昭和4年(1929年)に作られた鉄筋コンクリート製の大鳥居があります。柱の直径2.4m、高さ24m、笠木の長さ34.5mあり、大きさの点では日本有数のものです。

② 名古屋市秀吉清正記念館

昭和42年(1967年)、中村出身の武将、豊臣秀吉と加藤清正を記念するために設立されました。当時は豊正二公顕彰館という名称でしたが、平成3年(1991年)に建て替えられ、今の名称となりました。名古屋市博物館の分館で、豊臣秀吉画像と加藤清正画像を所蔵しています。

③ 中村公園

明治34年(1901年)に愛知県有の公園として誕生。豊国神社をはじめ、豊公誕生之地碑、八幡社など豊臣秀吉と加藤清正にゆかりのある旧跡が多いほか、明治43年(1910年)11月に明宮嘉仁親王(後の大正天皇)が来名した際に植えた大正天皇御手植松などがあります。また、昔は園内の太閤池や関白池で貸しボートを楽しむこともできました。

④ 明神社(みょうじんしゃ)

創建は鎌倉時代の建暦~貞応年間(1211年~1224年)で、熱田神宮摂社大和武尊を鎮守産土神として勧請したものとされています。当時は鎌倉街道(小栗街道)が通じており、京鎌倉間の宿駅として栄えた頃の社です。仁治3年(1242年)成立したと言われる中世三大紀行文のひとつ、「東関紀行」にも「萱津の東宿社」と記載されています。

⑤ 豊国神社(とよくにじんしゃ)

秀吉は死後、豊国大明神という神として祀られるようになりましたが、徳川の時代になるとその信仰は禁止されました。明治維新後、その復活運動が高まり、豊臣秀吉の出生地と伝えられる中村に、明治18年(1885年)8月県令(県知事)国定廉平の尽力を得て創祀しました。

⑥ 常泉寺(じょうせんじ)

慶長11年(1606年)加藤清正が一族の円住院日誦上人とはかつて秀吉を祀るために創建したお寺。この地は筑阿弥(秀吉の義父)の宅跡で秀吉降誕の地であるといわれています。境内には、秀吉の銅像の他に、秀吉産湯の井戸、手植えの柵があります。秀吉の事を語ることがはばかれた江戸時代には、「太閤山」の山号を取り上げられ、僧侶の学校となりました。江戸中期に寺と認められましたが、檀家がいまませんでした。それを地元の人達がお金を出しあって守ってくれたとの言い伝えもあります。

⑦ 妙行寺(みょうぎょうじ)

加藤清正生誕地に、清正が名古屋城築城の際の余材をもって建立した寺。境内には清正の銅像や石碑が建っています。清正堂には清正の死後、熊本本妙寺から日遙上人作の清正尊像が贈られ安置されています。戦で負け知らず、城作りの名人清正を神とする清正公信仰が日蓮宗の寺を中心に全国に広まりました。現世利益を生む賭け事や商売の神として信仰されました。

